

都市～農村～世界に つながる観光を創ろう!

NPO法人 美しい村・鶴居村観光協会
事務局長 服部 政人

第一回目の寄稿では、ひがし北海道鶴居村は山々に残雪がある春間近な少し寒々しい季節でした。初夏になり、緑鮮やか、村内でも一番草の刈り取りで大型トラクターが大草原をミニカーのように右往左往する季節を迎えました。今回は、様々な方々と取り組んできたグリーンツーリズムを酪農村ならではの観光産業に結び付けたお話しです。そして、私のライフスタイルに大きな影響を与えた「日本で最も美しい村連合」加盟やNPO法人化など地域観光に疾走した観光協会の歩みなど、たっぷり紹介しますね。

平成時代までの 鶴居村観光つて…

基幹産業の酪農が生み出す牧歌的な風景や、釧路湿原国立公園、タンチョウなどの個性的な自然景観を有する鶴居村。

もちろんそれなりに、国内外問わず、人気の観光スポットになっていました。しかししながら、村内に大規模な宿泊施設も少なく、観光スポットを周遊する通過型の観光スタイルが大半となっていました。観光消費もいまいち伸び悩みでした。かつての鶴居村観光協会は、村のイベントの開催などを中心に活動を行っていて、旅行会社等による自然景観やタンチョウ



サイクリング風景

見学などの発地型観光商品がほとんど。

そうした中、前回でも紹介しました村民や都市住民との交流を目的としたグリーンツーリズム組織「鶴居村あぐりねつとわーく」が発足し、農家民宿、修学旅行の受け入れなどの取組は利用客からの評価も高く、鶴居村固有の自然や暮らしに触れる魅力は、大きな効果がありました。この取組を村全体に広めるため、地域にある資源を活用した鶴居村なりではのプログラムを企画し、通過型観光から滞在型観光への転換を目指しました。

鶴居村地域づくり

観光調査研究委員会の設置

「鶴居村あぐりねつとわーく」の取り組みをモチーフに、当時の観光協会でも通過型観光から滞在型観光への転換を目指しました。平成一九年、酪農ヘルパー



酪農体験

利用組合に職を置きながら、鶴居村あぐりねつとわーくの代表及び鶴居村観光協会の理事も務めていた私は、鶴居村観光協会内に「地域づくり型観光調査研究委員会」設置の提案をし、鶴居村地域づくりの連携)」「交流(農家民宿や学校教育との連携)」「体験(酪農体験やファーマーズなど)」「食(チーズなどを利用した料理)」「体験(農家民宿や学校教育との連携)」といった四つの新たな柱「食と景観と体験、そして交流」を軸に、官民一体の観光振興に取り組み始めました。

た。

日本で最も美しい村連合

、鶴居村

平成二〇年に、とてもうれしくびっくりするニュースが飛び込んできました。

我が鶴居村が「日本で最も美しい村連合」に加盟したとの知らせでした。私たちが進めている地域づくり型観光は、美しい村連合の理念そのものを感じてましたの

り観光調査研究委員会の事務局として、

水を得た魚の如く、企画立案をしてい

ました。「これまでの「景観(湿原やタン

チヨウ)」に加えて、「食(チーズなどを

利用した料理)」「体験(農家民宿や学校教

で、うれしい悲鳴でした。

NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、平成の大合併の時期、小さくても素晴らしい地域資源や美しい景観を持つ村の存続を目的に、失つたら一度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す運動。とても美しく、素晴らしい、正しく、鶴居村ならではの、鶴居村だから進められる観光と、勝手に納得しておりました。欧洲にバカンスとして長期滞在する外国人観光客が求める食や景観、体験に交流もすべてが美しい旅。これを理念とした観光を進めるぞーーと。ちなみに、現在の当協会の正式名は「特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会」美しい村連合の理念は、「これから美しい村・鶴居村観光協会」を設立しました。新たな観光協会のビジョンや理念が鶴居村地域づくり観光調査研究委員会の事務局と美しい村連合の理念は、「これから美しい村・鶴居村の観光を考える私にとってとても幸せな時間でした。平成二二年四月、それは突然やってきました。私が鶴居村観光協会（当時は任意団体）の初代専任事務局として勤めること理念が見える名称はかなり誇りです。



the most beautiful
villages in japan

鶴居村
北海道

美しい村連合の

理念を持って観光協会設立

鶴居村に暮らした当時の農家の皆さんと日々熱くトークすると同じぐらい、「鶴居村地域づくり観光調査研究委員会」の事務局と美しい村連合の理念は、「これから美しい村・鶴居村の観光を考える私にとってとても幸せな時間でした。平成二二年四月、それは突然やってきました。私が鶴居村観光協会（当時は任意団体）の初代専任事務局として勤めることとなつたのです。

村内の様々な人々の参加協力を得ながら始めたグリーンツーリズム。そして地域づくり型観光と美しい村連合加盟など、村にある人材、自然、農村景観による鶴居村ならではの観光関係者が強く推し進めてくれたと感じます。

鶴居村ならではの長期滞在型観光、創りうと、二年間の準備期間を経て、平成二四年、念願の法人格「NPO法人美しい村・鶴居村観光協会」を設立しました。新たな観光協会のビジョンや理念が鶴居村にも理解・浸透され、釧路湿原などの自然環境や広大な農村景観、特別天然記念物タノチヨウなど現在ある豊富な資源を活かしながら、何度でも訪ねたくなる魅力ある村を目指し、平成二七年『鶴居村観光振興ビジョン』が策定され、村と観光協会が一体となって長期滞在型観光へ舵を取りました。

得ながら創つてきました。ナチュラルチーズやワイン、ジビエなどの食。タンチョウや釧路湿原の景観。フットバスやまちなかアシストサイクリングなどの体験。各コミュニティの村に恵づく暮らしが交流。

地域にある観光資源により、観光客数は平成十九年度の約十九万人から平成三十一年度には約三五万人に、宿泊者は平成十九年度の約六千人から平成三十一年度の約一万四千人に増加しました。

多くの住民との交流というリレーションをしながら創りあげてくれた鶴居村ならではの観光が、インバウンド・移住促進にも一役を担ったのかとも感じています。

地域資源を活かし、 インバウンド・移住につなげる

もともとある地域資源を最大限活かして小さな村観光を、地域の理解と協力を



釧路湿原散策

象としたインバウンド対応セミナー等を開催、ホームページやパンフレットの多言語化、キャッシュレス決済やWi-Fiなど外国人が過ごしやすい環境を村と観光協会で整備を進めてきました。平成三十一年には、約八百人の外国人観光客の宿泊数となり、コロナ禍までは年々増加傾向にあり、道内、国内、海外と暮らすような旅が少しづつ浸透していました。

私たちの理念である「ここならではの食と景観と体験、そして交流」のもとなつた地域資源を活かした観光への取り組みが、農泊宣言（農山漁村に中長期滞在をする観光のしくみ）として、インバウンドや特産品開発など、さらに地域と進める観光事業になつたことはうれしい限りです。

村民と外国人との交流機会も多かつたことから、村全体が外国人観光客の受け入れに前向きであったことに加え、外国人観光客の増加に向け、村内の宿泊施設を対

自然の恵みに感謝

農村観光が教えてくれた」と

広大で豊かな草原とその草を食む乳牛たちが創る酪農風景。そして冬のタンチョウ、釧路湿原の強く気高い自然環境が、私たち鶴居村観光の原点です。

ていねいな手作りのナチュラルチーズ。毎日熱意と技術をかけて日々酪農家が生産する牛乳から生まれるチーズも酪農物語です。平成十九年に中央酪農会議主催の「△△ JAPAN ナチュラルチーズコンテスト」で最優秀賞の「農林水産大臣賞」を受賞した小さな村の栄えあるチーズです。

美しい村・鶴居村観光協会として「五泊以上の長期滞在型観光ツアーの実施」「タンチョウ、チーズづくり、フットパス活用の交流活動」「地域連携による特産品販売」等、様々な都市農村交流を目

的としたイベントに取り組みました。

平成二八年十月、内閣官房及び農林水産省が主催する「ティイスカバー農山漁村（むら）の宝」（第二回選定）農山漁村活性化の優良事例として選定していただきました。

タンチョウ、釧路湿原、酪農景観といった観光資源に地域交流を組み入れた観光交流事業を活かしたインバウンド事業を目指して、台湾を中心としたサイクルツーリズムや東南アジアからの観光客誘致を視野に、都市↔農村↔世界が鶴居村でつながる交流観光に、これからもみんなの笑顔を源に力を注いでいきます。

服部 政人さん

1959年大阪府生まれ。
平成3年に大阪の民間企業を退職し、家族4人で北海道鶴居村に移住。
グリーンツーリズム組織「鶴居村あぐりねっとわーく」を設立、初代代表。
鶴居村観光協会事務局長を務める、自称イケてるシルバーエイジ。

